

京都の中小企業、中国の大気汚染に挑む

特許技術を北京のバス、トラック等で実証試験

国際協力機構(JICA)は「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社タシン(京都府宇治市、田中信夫代表取締役)が提案する「北京市における自動車由来の大気汚染削減と燃費改善案件化調査」(中国)を採択しました。

中国の大気汚染は近年深刻化しており、PM2.5の日本への飛来も懸念されています。大気汚染度が日本の7倍とも言われている北京では、市内の大気汚染の発生源の3割が自動車であり、自動車台数が増加する昨今、排気ガス対策は大きな課題となっています。

(株)タシンの「ワープエアクリーン」は、自動車のエアフィルターに取り付けることによりエンジンの燃焼効率を高め、排気ガスのクリーン化と燃費向上の効果がある今までにない新しい空気触媒製品(特許技術)です。国内で行ったテストではアイドリング時の黒煙濃度を90%以上削減することが確認されており、中国の大気汚染問題にも効果を発揮することが期待されています。今回の調査では、中国の国営企業の協力のもと北京市内のトラック、乗用車等に本製品を取り付け、製品の効果を測定し、ビジネスの普及の可能性も検討します。



この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2015年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。120件の応募のうち34件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考: (プレスリリース) 案件化調査 2015年度第2回公示の採択結果について

URL: <http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】 JICA 関西業務第一課 小西
 TEL 078-261-0397 e-mail: Konishi.Yoko.2@jica.go.jp